

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスまりも平野東&			
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者からの子育てに関する相談支援体制の充実	日常的な送迎時や連絡帳、電話等を通じて保護者が相談しやすい関係づくりを意識し、子育てに関する悩みや不安に対して迅速かつ丁寧な対応を行っている。必要に応じて面談機会を設け、家庭状況やニーズを踏まえた助言や具体的な支援方法の提案を実施している。	定期的な面談機会の確保および相談内容の職員間共有を進め、支援の質の均一化を図る。また、関係機関との連携を強化し、専門的視点を取り入れた保護者支援体制の構築を進めていく。
2	保護者との継続的な情報共有および発達状況に関する共通理解の形成	日々の活動内容や利用時の様子を連絡帳や口頭で丁寧に伝えるとともに、家庭での状況についても積極的に聞き取りを行い、双方向の情報共有を大切にしている。これにより、発達状況や課題について保護者と共通理解を持ちながら支援を行っている。	モニタリングや個別支援計画の説明を通して支援目標の共有をより明確化し、家庭と事業所が同じ方向性で支援を行える体制を強化する。併せて、記録方法の統一やICT活用を検討し、情報共有の精度向上を図る。
3	利用定員と支援環境(スペース)の適切な管理・整備	発達支援室等の面積や活動内容を踏まえ、適切な利用定員を設定している。また、活動スペースと落ち着いて過ごせる空間を分けるなど、安全かつ安心して過ごせる環境整備に努めている。	利用状況や児童の特性に応じて活動環境を定期的に見直し、個別性に配慮した空間設定を検討する。また、安全管理や動線確認を継続的に実施し、快適で質の高い療育環境の維持・向上に努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係事業所との連携体制の強化	必要に応じた情報交換や連携は実施しているものの、定期的・継続的な連携体制の構築には至っていない。日々の支援業務を優先する中で、他事業所との交流機会やケース検討の場が限られていることが要因と認識している。	関係事業所との定期的な情報交換やケース会議への参加を積極的に行い、地域全体での支援力向上を図る。また、相談支援専門員や学校等との連携窓口を明確化し、継続的なネットワーク形成を推進していく。
2	園との情報共有および相互理解の推進	園との連携については、保護者を通じた情報共有が中心となっている家庭が多い状況である。必要時や緊急時には職員が直接連携を図るなど、状況に応じた対応を行っている。	現在は保護者を介した連携が中心となっているため、今後は職員から保護者へ積極的に声掛けを行い、必要に応じて園との直接連携を図るなど、連携不足が生じない体制づくりに努める。
3	家庭に対する支援情報の提供および家庭支援の充実	日々の連絡帳や送迎時の口頭説明を通じて情報提供を行っているものの、発達支援に関する知識や家庭で実践できる関わり方について、体系的かつ継続的な情報提供の機会は十分とは言えない。情報発信の内容や方法に職員間で差が生じやすい点を課題として認識している。	家庭でも実践しやすい支援方法の共有を進めていく。また、情報提供内容を職員間で整理・共有し、誰が対応しても一定水準の情報提供が行える体制を整備する。